

ブラウザのアドレスバーにある鍵のマークには3種類ある

ブラウザのアドレスバーに  『鍵』のマークの付いているホームページはパソコンとサーバー間のデータのやり取りが暗号化されていて安全性が高いとされています。

Chromeの例



すべてのホームページに鍵が付いているわけではありません。また、同じ会社のウェブページでも鍵の付いているページもあればないページもあります。

鍵のマークをつけるためには何がいるのでしょうか。

鍵のマークをつけるためには、そのウェブページを発信しているウェブサーバーのドメイン（インターネットの中の住所）が実在していると信頼性のある機関が認証し認証書（SSL 証明書）を発行していることが必要です。

この認証には、信頼性について三つのレベルがあります。

1. 一番信頼性の高いレベルは、ドメインの所有者が実在している機関（官公庁、会社、組合、一般団体など）であり法的手続きのなされている機関であること
2. 二番目はドメインの所有者が実在している機関（官公庁、会社、組合、一般団体など）であること
3. 三番目はドメインが実在して所有者がいること

となっています。

これから言えることは、鍵のマークが付いているホームページは、データの暗号化はされ通信途中盗聴されても内容を読み取られることはないかもしれませんが、だからと言って、そのホームページが信頼できる実在している機関が運営しているとは限らないです。

一番信頼性の高いレベルのホームページでは、インターネットエクスペローラではアドレスバーの右に、エッジ、クロームではアドレスバーの左に会社名などが表示されています。この会社名などが表示されていれば、信頼してデータを入力できるホームページと言えます。